

BOAT RACER'S HOTLINE

出畑孝典

Takanori DEBATA

成績は10月23日現在

登番	支部	出身	期	年齢	級	前期勝率	通算勝率	通算1着	通算優出	通算優勝	2024年賞金	生涯賞金
4079	福岡	福岡	87	45	A1	6.41	6.25	1683	188	36	3044万8466円	5億9470万6428円



レーサーとしての分岐点はSG優勝戦でのF 息子のデビューに刺激を受け、絶好調モードに

○ターニングポイント
——ボートレースとの出会いは？

福岡出身なんでボートレースは身近な存在ではあったんです。親が好きなのもあって子供のころからよく連れて行かれました。ただ子供の頃、レーサーになんたという思いはなかったです。

——自衛隊に所属した経歴がある。
5年ほど陸上自衛隊に勤めていました。高校は自衛隊に所属しながら通信制で卒業の資格を取りました。この頃、ボートレーサーになりました。この頃、ボートレーサーになりたという気持ち湧いてきて、夢を捨てきれなくてレーサーを目指しました。

——00年11月にデビューし、今年で24年目。09年11月児島周年でGI初優勝。長いキャリアを振り返って。
ターニングポイントはSG優勝戦でのフライングですね（11年福岡メモリアル）。自分は準優勝戦が10Rの1号艇で1着。11R、12Rと1号艇の選手が2着になって優勝戦の絶対枠が巡ってきた。インコースだったんですが、3コースの岡崎恭裕選手とともにフライングを切ってしまいました（優勝は瓜生正義）。普通のフライングとはやっぱり違います。自分の中で、自信があったわけではないですが、チャンスをもたないでよかった。精神的にも厳しい面もありました。そこからリズムが崩れました。以降のレースが消極的になってしまった。

——福岡の1コースは難所。特に当時は準優勝戦3個レース全てイ

ン逃げ決着になることは稀だった。

最近でこそ逃げは増えています。福岡3場の中でも全然違います。油断はできない。それは今でも同じ。うねりの影響もありますし、昔からセンターが利くというイメージ。かといって外のコースだとあまり引つ張ることができない。他場だと予選を首位で通過したらある程度計算が立つものですが、福岡は簡単にはいかないですね。

○息子・孝成の存在

——そんな中、近況は上昇モード。
本来の走りが戻ってきているイメージ。

それはやっぱり息子の存在が大きいですね。

——4兄弟の長男・出畑孝成選手が昨年11月にデビューしました。

息子にはレーサーになることを全く勧めていなかったです。ただ中学2年生頃、息子から「レーサーになりたい」と言ってきた。危険だから心配なこともあるけど、反対はしませんでした。なれるかどうかは本人次第。体力的な面とか、努力をしているのは見ていた。それが自分のモチベーションにもなりましたね。結果的に最近の自分の成績にも影響していると思います。

息子がデビューしてから自分のことも考え直したり、見直すようになりましたね。ターンの仕方、プロペラの調整に関してもです。「負けれない」というよりも、一緒に

成長したいという思いがあります。

——息子・孝成選手も8月の福岡でデビュー初勝利を挙げました。
やっぱり嬉しかったですね。1度同じレースを走ったことがあるんですけど、それも嬉しかったです。自分が1号艇で息子は6号艇。さすがに自分が先着しましたよ。

——孝成選手へのアドバイスは？
水神祭を挙げて、オール6コースも卒業。コースを入れるようになるとおのずと成績も上がってくると思う。それよりもレーサーとして、人間として礼と節を守って成長してほしい。今は一緒にプロペラの研究もしますが、器用だし、やる気もある。探究心はすごくありますよ。それによって自分も触発されていますね。

——いつか一緒にGI、SGへ。
そうですね。ただ、今は自分がグレードレースを走れていない。そこはもうひと踏ん張りしないとけない。
——今年はV4。クラシックが射程圏に入ってきました。

9月唐津の優勝で現実味を帯びてきた。そこは意識して、権利を取れるように頑張っていきたいですね。まずSG、GIの舞台に戻るといよりは、それに見合う成績を残さないといけない。

——SG優出した頃と比較すると？

今の方が力はあると思いますよ。だからこそ、今は優勝を意識して、結果を出していきたいですね。

BOAT RACER'S HOTLINE

田頭虎親 Torachika TAGASHIRA

登番	支部	出身	期	年齢	級	前期勝率	通算勝率	通算1着	通算優出	通算優勝	2024年賞金	生涯賞金
5037	香川	兵庫	122	26	A1	6.31	4.66	187	11	0	2278万8120円	9282万7545円



デビュー当初からブン回しまくったスピード野郎 A1級初昇格を果たし、次のステップは王道優勝

○デビュー当時

初勝利までに1年10か月。当時を振り返って。

初1着までに時間も掛かりましたし、B2級も3期続きましたからね。その頃は6等を走っていても外を回っていけば前を抜ける：と思っていたんですよ。とにかくブン回していましたね。自分は頭が悪いので…。ただ、考えるとその頃に握って回っていたことがスピードのベースを上げることになったかなとは思っています。

― 師匠は重成一入選手。

師匠には「ボートレースはターマークを回る競技やぞ」と言われていたんですけど、やっぱり自分はブン回っていましたね。

― 初勝利を挙げた期に3勝。その次の期には勝率も一気に4点台へと急上昇。

偶然プロペラが合ったんだと思います。それまでもプロペラは触っていたんですが、分からない状態で叩いていた。僕のプロペラで次に乗った選手は悲惨だったと思いますよ。振り返ると着が取れた時はとにかく軽快でしたね。スリットの足も軽快でした。ただ、それは本来の自分が求めている感じではなかったんです。成績が上がったとはいえ、その迷いがB級が続いた原因でもあったかなと思います。調整が合っていたらスピードを持ったターンをしても怖くはないんですが、その頃は少しずれていたから怖いな：と感じていたの

― 重成選手からはどんなアドバイスが？

― 師匠は理論派。話が難しく、最初は右も左も分からないことが多かったです。それでも言われたことは忘れていません。今は少しずつ理解できるようになっていると思います。

― 近況

― B級の殻を破って23年後期からは2期連続A2級、そして24年後期は初のA1級昇格。

その頃から自分は「ターンの」初動が欲しい。初動が安定しないと握れない」ということが分かってきました。それで勝率も上がったと思います。もちろん下がらないことが前提ではあるんです。そこから自分なりに冒険して、いろいろポイントを見つけていくという感じですね。ただ、今期の勝率はもう少し上げないといけない。夏場が苦手ですね。

― 今の目標は？

優勝したいです。優勝したらまた変わるものがあると思うんですが、そのためにも予選で得点率トップ通過を経験したいですね。そこが優勝への近道だと思います。インコースなら勝てるという自信はあります。やっぱり優勝戦の1号艇が一番仕上がった人の位置だと思えます。外からすごい差しかで優勝することもある。いいけれど、絶対ではない。やっぱり予選で1位を取って、準優勝戦も勝って、優勝戦の1号艇でインからしっかり勝つ：それが一番の理想だと思います。

○周囲の環境

― 122期、同期の存在。

畑田汰一選手は養成所時代からエリートでしたからね。自分からは3番目ぐらい。ほかにも原田才一郎選手、安河内健選手、若林義人選手、中亮太選手とかは活躍しています。少しは追いついてきたけど、そこからはひとつ下の存在かなと思います。

― 家族の支え。

石丸小楨選手と結婚して意識は変わりましたね。家族ができて、A級にも上がることができた。子供もできましたね。やっぱり1人だと怠けてしまいます。家族の存在は大きいですね。

― 現状の課題と狙い時は？

大敗が多い。調整面でムラがある分、大きな着を取ってしまう。そこを克服しないといけないですね。そこは失敗しても積み重ねていかなければいけない。狙い時というか、自分は展示の1周タイムを意識しています。本番に近いスピードでしっかり波の上で乗れるかを確認しています。直線の足も下がっていたら1周タイムは出ない。だから1周タイムが出ている時は乗れていると思います。

― 将来の目標は？

やっぱりGI、SGに定着して師匠と一緒に走りたいし、タイトルを取りたいという気持ちはあります。せっかくレーサーになったんですからね。